WASO-V
HQ

Jun 30
1888
no. 116

廿一年六月（版權所有）三十日發兌

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

東京女學雜誌社

一冊五錢 府内無税 郵税一錢 每土曜出版

第百拾六號

社説
溫泉塲の取締を望む

論説
社交上に於ける婦人の勢力（德富猪一郎）○日本現今之婦人（伊勢時雄）

批評
新撰讃美歌（美妙齋主人）○高島易占人躰改良論

叢話
米國通信（島田三郎）○身を殺して妻を愛す○空氣之話（長與專齋）○歌の沿革（佐々木作楽）

小説
さすがに雙紙（美妙齋主人）○小說神髓

佳傳
メレーライラン女史

寄書
英詩（ピヤソン夫人）○いらつめ批評の批評の批評（社脇子）

小供談
新報○外報
女子大會學況錄

[illegible]

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 116. June 30th, 1888.

EDITORIAL:— Watering Place Regulations.

LEADING ARTICLES:— The Influence of Women in Society, by Mr. I. Tokutomi; Women of the Present Age by Rev. Mr. T. Ise.

CRITICAL NOTES:— The Revised Church Hymn-Book; Mr. Takashima's "Physical Reform."

MISCELLANIES:— Letter from Mr. S. Shimada in America; A Story of a Devoted Husband; On Air, by Mr. S. Choyo; On Japanese Poetry.

NOVELS:— "Sasugani." (A novel); Bouquet of Novels.

BIOGRAPHIES:— Mary Lion (II).

CHILDREN'S COLUMN.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS

通信女學の廣告

一册枚數七十葉二十錢全國無郵税半年前金一圓一年前金二圓也

左の第十巻此度發兌せり以後毎月切度十五日發兌

通信女學 第十巻發兌

此度の號より大ひに改良を加へたる所ろあり諒焉

今度所々の婦人會の教科書に用ひられたり尚廣く購讀を乞ふ

女學雜誌社

左の圖は今般米國イルノイス州シカゴ府に設立せる米國婦人禁酒會にて地價六十萬弗建築八十萬弗の十五階の石造にて尤も宏壯なる大會館あり歐米各國よりの寄附金は勿論支那上海

香港シンガポール墺州印度等よりも夫々相等の寄附金ありて最早豫算の高に達し近々拂込申入れの部は謝絶する勢なり我東京婦人矯風會よりは四十圓を寄附したり。

女學雜誌 第百拾六號 明治二十一年六月三十日發兌

社説

○避暑の時節近づいたり、

再び温泉塲の取締に忠告す。

七八月避暑の時節もはや近づいたり、吾人は一年三百六十五日家内にくすね反へり、子供に泣かれ御亭主に叱られて最と窮屈に此日を送り、太陽登り月落つれども何の變るともなく暮らし居られたる御婦人方が、何卒切めては此時節丈けゆる〳〵と保養を成され、一家同伴して閑靜の地に遊ばれんことを切望するもの也。蓋し御婦人の一生ほど變化の少なきものはなし、變化少なきが故に、氣も屈し、心持も鬱するなれ、時時は山青く水清き邊に出遊なくては、人間の一身左樣に續くものにあらず、故に御亭主が獨り湯治に樂しみを盡して、細君此時も亦た家に獨りで留守番をせらるゝ如きは、甚はだ事の當を得ざるものとして、吾人夙に之を慷歎したりき。之を以て、毎年避暑の時節に近づけば常も同樣に此の主旨を御すゝめ申すと共に、常も亦温泉塲の事に付て一二言せざるはなし。然るに兼て申したる愚見侚ほ行はれざる所少なからず、甚だ殘念の至りと思はるゝが故に、今ま又た更らに同樣の事を繰反すの不幸に出で會ふ、歎息の極と云ふべし。吾人嘗て云へらく、

傍に祖裼裸躰の人ありて之を搆はざるものは、古の柳下惠のみ。今日文明の時代となりてハ、第一禮式の制限甚だ六ケ敷して、人々の心得方亦甚だ高尚と相成りたれば、自分が起居坐臥に注意して、行儀の用心堅固なると共に、人の仕向方を吟味するとも、亦昔日の如くならず。昔し虱を捻るの書生を英雄としたるも、今日、之れを非常の無禮者として容赦せざるべし。人々の交際、萬事甚だ窮屈となりたるやに思ハるれども、之れ即ち眞の文明にして、追々物事を奇麗にする、開化の精神に適ふものと云ふべし。」所謂る肉躰を露ハすの一事ハ、即ち、古に於て頓着せず、今に於て尤も嫌惡する所のものなり。蓋し、野蠻の民ハ、腰に、怪し氣なる虎の皮を纒ひ、頭に、羽打たる冠を頂くの外、全身を丸出しにして、毫しも恥辱とせず。甚だしきは、反て其肉に色々の摸樣を畫き、之を自慢らしく人に示して、誇りたるものなり。」思ふに、此の社會に於ては、肉躰暴露の事、決して恥辱にあらず、人も亦見て之を無禮と爲さゝ

りしと雖も、之よりして文明の足一歩を進むれば、即ち身躰を被ふと亦一寸を廣くし、開化の度彌よ高うなるに付て、衣服を重ぬると亦たいよ〳〵厚きを加ふるが如し。」試みに當今歐米の開化人を見るに、頭に帽を頂き、足に靴を穿ち、手に手袋をはめ、頸に襟飾を高うし、而して婦人は猶ほ其の面をも被ふと云ふ。若し此割にして進まんには、人遂に眼中の瞳ばかし出して、其他をば隱さんかと思はる。之れ則ち、肉躰を包むものゝ上乘なり。」因つて我國人中の風習を見るに、亦た得て開化の多少を測知すべし、先づ車夫の下等なるものは、股より下、腕より先を現はす、然れども法被股引に全身を覆ふものは、上等のれ抱なり。書生の最初は、衣骭に至り袖腕に至る、其の風躰恰も半纏を衣るに似たり、然れども、黒の洋服全身を包みて、肉眼亦た目鏡を掛るに至りて、即ち上等の書生となるなり。又女の下等なるものを見るに、胸前開け、衣服合はず、柱の如き兩の股、時々空氣に觸るゝも、恬として顧みず、蓋し下女はした女の類ならん、然るに彼の深窓に養はれ玉ふ姫君は、十二單重に玉躰を包み、御裾長やかにして足の運を示さず、隱くし得て至れりと云ふべし。此の如きハ、皆夫々の仲間に於て、肉躰を包むの多少を以て、其開化進歩の多少を示すものなり。」若し夫れ、跣足の男常足袋の人に制され、羽織を着たる番頭仕着せの小僧を叱り、親方士寺を引かつぎて子分肩を脱ぎ、相撲裸で取組み行司上下を着て撿察し、ウェブスター薄衣を着けて劔山の眞裸なる、膚着一枚の貧相もの輕蔑されて重ね豊かに着なし足振りとしたる旦那が敬さるゝ如き、皆な是れ同一味の理由に出づるものと云ふべし。」

之を以て、西洋人が右の一事に注意するとの綿密なるハ、即ち殆んど其國一般の風なりと雖も、其女流に至りてハ、殊に甚だしく之れを掛念して、たしなみ尤も嚴かなるが如し。故に外國女教師が日本の女生徒を教育するに當り、之が身の廻りに付いて、先づ第一に注意する所ハ、襟を固くしてピンを以て止むべし夏冬足袋を穿ちて素足にてあるべからずとの二件なりと云へり。その肉躰を露ハすとを慊ふの用意、至れりと云ふべし。」然れば、西洋人ハ尤も親密なる夫婦間と雖ども、互に其躰を見するを以て雙方の恥と爲す。かのてゝら二布をして、裸躰の夫婦夕顔棚の下に涼を納るゝ如きハ、彼の地に於て甚だ不快とする所ならん。」友人某

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

、多年の間洋行して、彼の地に留まり未だ一回だも女子の膚を見たるとなしと云へるは、眞に味ある談なり。之れを我國の女が、時として膚を脱き、時として臀をからげ、以て恥とせざる如きに比せば、果して幾干の差ぞや、顧みて眞に赤面に堪へざる事也。

此の故に、男女混湯の如きは、文明の地に於て夢にだも聞かざる所のものあり。彼地には、男子が男子に躰を見するを厭ひ、女子が女流に躰を見らるゝを恥とす。况んや、男女全身を露はして入込の湯治を成す如き事をや。某國に若し如斯き風俗ありと聞かば、其國に如何なる聖人の道行ハれて、何如に黄金に富めりと雖ども、只だ此一事によりて、之を野蠻國の類中に組入るゝと勿論なるべし。之を以て、我明治政府は、夙に男女混湯を嚴禁するの法を設ふけられぬ、見る所宜しきを得たりと云ふべし。」然るに、一軒の湯屋左右に男女の風呂の造り、湯壺を一にして、間に少さかの仕切を立て、以て僅に法律上の申譯を爲したるものあり、政府も初めは之れを大目に見て、容赦ありたれども、遂に嚴に之を取締りて、必ず湯壺を二ッよすべしと命ぜられたり。然るに左右兩室の區畫尙ほ甚だ曖昧にして、彼是れ明かに見透し得たれバ、女方の大きやかなる臀、殿方の殺風景なる行儀、雙方明かに見え渡たりて恰も一室中にあるが如し。加之風呂屋の主人、特更に區畫の仕切に硝子を挿みて、尙更らに容易く見透かさするを以て風流の結構と心得たるあり、以ての外の亂暴なるが故に、政府ハ更に令を嚴にして、中仕切を悉く板付にし、男女の浴客は、雙方すこしも見過ぐす事能ハざらしめて、遂に今日東京府下に於て見るが如きの湯屋とはなれり。」此の最後の嚴命は一昨々年の十二月來府下に行ハれたるものにして、其後各地方にも同樣の施政ありたりと聞及ぶ、全國の湯屋今や蓋し昔日の觀あらざるべし、之れ尤も慶賀すべきものあらん。」然れども、吾人もし歐米の風を慕ふて、密かに顧みれバ、今日の取締りハ、尙ほ完全を得たるにあらず、更に進んで一人一室に入るの有樣に至らずんば、決してかの躰を隱す上乘の風俗に達したるものにあらざると、勿論なりと雖も、而かも今や全く男女混湯の跡を絶ち、男ハ男、女ハ女とのみ相混浴するの地に進みたるものなり、湯屋の進化の跡、之に鑑みて甚だ面白きものあるが如し。故に、今日の我國の湯屋ハ、未だ歐米に行ハるゝ如きものに至らざるハ言を待

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たずと雖も、先づ男女混湯の蠻風を去り得たるものとして、甚はだ喜ぶべきが如くなるゝ、茲に尤とも奇しむべきは、彼の所謂る温泉場の男女混湯なるもの是なり。其取締は、今日に至るも猶依然として昔日の蠻風を存し、敢て變はる所なきは何故ぞや、去年吾人箱根に湯治したる時、狹やかなる湯壺に、人の娘孃細君と共に浴せざるを得ざるの不幸に遭ひ、常に赤面したることあり。況して女方に取りては、其不都合なること言語に絶す、蓋し數多の婦人中には、之を何んとも思はず、湯の中に高談大笑して平氣なる輩も亦之れあらんとは雖も、その大抵は、遠慮して墓々しく入浴せず、人の居らざる隙間を窺ふて倉惶入湯するの躰、尤も氣の毒に思はれたり。蓋し温泉場は、保養を主として萬事緩かならんことを希ふ所なるに、其風呂場は、反つて尋常の湯屋にも劣りて、不安心なる事極りなし、男子の方は暫らく之を恕するとしても、女子の身上には不快此上なし、吾人少か代つて之が爲に不幸を述べざるを得ざるなり。」當路の人、希くハ其取締を嚴にして、男女の湯壺を別たしむへし。蓋し大抵の湯治塲ハ、一箇所に二以上の湯壺あらざるハなし、之を男女に分つ事決して難事にあらず、例ひ又湯壺只一にてあらん時も、入浴の時間を割つて男女の入湯を定めば、之を制する事難きゝあらず。而して今尙ほ男女混湯の餘習を此處に隱居せしむるものは、何ぞや、温泉場は外國人の尤も多く群る所なり、當路の人國の爲に心を用ひて可なり。」

吾人嘗つて之を文化六年に出板したるヲドケの名著に聞、曰く、當時の師直さらに女湯を覗かず、男湯孤ならず女湯必ず隣にあり、亭主の貪頭盧尊者ハ斜に女湯を見やりて、膏藥の流るゝを知らねど、男女風呂を同うせず、夫婦別あるを知れるや、女房の光明皇后女湯の番頭に代はると、蓋し風呂の男女ゝ各ゝ浴する所を異にするを誇るならん。吾人ハ十九世紀明治の聖代に於て、式亭三馬が、箱根伊香保の温泉に浮世風呂の惡口を述べざらんことを、切望して止まざるもの也。」

論　說

○婦人の社交上に於ける勢力（其一）

徳富猪一郎　演說　佃與二郎　筆記

左は客月府下南部婦人矯風會に於て徳富君が演說ありたる

もの、大意あり其の極めて精細なる筆記は婦人矯風雜誌に掲載するを以て玆には只だ其の荒増を錄す。

今日、婦人矯風會から、何か私に演説する樣にと、御依賴にありました、誠に私に於て光榮の至りと存じて居ります。併しドウモ殘念の事には、別に私の申上ることが、皆樣のお爲めになると云ふことは、或は無からうかと思ッて居ります。一躰私は世の中の牧師若くは傳道師と云ふ如き、演説や或は説敎と云ふ樣なことをして居るものでハありません。元來筆を持て立ッて居るものですから、書くことハ(上手か下手かは知らぬが)兎に角書て居るが、言ふことハ能く言ふか能く言はないか、自分でも經驗の無い樣なことであります。而して私の申すことの、一ッの困難と云ふハ、九州男兒、ト云はヽエライことの樣だが、男兒と云はずに先づ九州のものである、故に動もすれば九州の言葉を、矢張東京に輸入して使ッて居ります。殊に御婦人方に九州の言葉で演説するなれば、一人ぐらゐ通辨がなくてハ、ドウデあらうかと懸念して居ります。併し九州語の通辨と云ふ學問も未だ開けて居らないから、餘儀なく私獨りでお話しますが、若しお分りにならぬ所があれば、今度婦人矯風雜誌にお出し下さる樣子でありますし、又た巖本さんの編輯にある女學雜誌にも、お出し下さる樣ですから、何うか分らない樣な所があれば、其雜誌について御覽になれば、先づ一應はお分りになることと思ひます。

扨私の述る題は、「婦人の社交上に於る勢力」と云ふ題であります。今まで女權擴張とか何んとかお噺なしになるお方々の、お話しを承れば、兎に角東洋の婦人ハ男子の奴隷である、是れでハ往けないとのことであるが、私等に於ても、至極御尤もの御議論と思ッて居るのであります。併し私をして言ハしめたならば、最う少こし辭を換へて、東洋の婦人別けて日本の御婦人方ハ、人の眼に見へる所に於て、男子の奴隷と云ふことである。一躰御婦人方の權力の無かつたのハ、人の眼に着く所である、例へば爰に、殿樣が御歸り遊ばすと、御歸りと云ふ聲と共に、一番先きに飛出されるのは孰か、奥樣が一番先きにお出でになる、何處までお出で遊ばすかと云ふに、玄關の端までお出で遊ばす、シテ何うなさるかと云へば、先づ三拜九拜です。腰のまがるだけ屈げ、頭のさがるだけ下げ、優しき辭の出るだけやさしい言葉である。ソシテ殿樣ハ何う云ふ御挨拶があるか、意氣揚々としてデス、肩で風をきつて、何とも御挨拶ハない、時々(頷)此邊が少し動く位です。言

葉の上でも、奥樣の方は何と云ふかと思へば、アナタ樣、樣づけです。ソレに旦那の方からは何と云ふか、先づ呼すてゝあるのです。一方には呼すて、一方には樣づけ、斯う云ふ例は數ふるに遑まなき程であります。滊車の中、馬車鐵道の內に於ても、男子婦人の間の權衡は保て居らない、既に嬌風雜誌にも、馬車鐵道の中で、男子は相撲のごとくなるも、御婦人は小包を提げて、お立ちなすつて居ると云ふとが、書てあつたが實に其通りです。

併し其關係と云ふものが、何うなるかと云へば、隨分打て替て居る。例へば玄關を離れ、奥座敷に入り、臺所に往けは、果して何んなものかと云へば、隨分奥樣はじめ御婦人の勢力は強いものである。何の樣に強いか其強いとを分析するのは廢めて、兎に角強いと云ふとを御承知になれば先づ宜しい。ソレデ恰好其有樣に喩うるとがある、例へば俳優が舞臺に出て、馬の足となり、熊谷となり、敦盛となり、照手の姫となるのだが、樂屋に行けば皆同じ役者と云ふのです。家の容態が、丁度狂言をして居る樣で御座います。玄關とか座敷とかは、一家の間の演戯で、一人は威張らずとも宜しいとに威張り、エライ殿樣めかして居る、一人は諂はずとも宜しいとに諂らゐ、マルデ演劇の樣なとであります。日本の婦人と云ふても、マルデ男子の奴隷ではない、人に見へる所で奴隷です人に見へない時は、隨分殿樣をイジメる樣な妻君も御座らうと思ひます。

一躰日本におきまして、一番女の強いのハ孰であつたか、何處であつたかと云ふとを聞てみれば、先づ皆樣も御承知の通り尼將軍と申します、賴朝の妻君の政子と云ふ人である。賴朝と云ふ人はキカヌ氣の旦那樣で、エライ人であつた、此賴朝に抵抗して居る政子と云ふお方も、ナカ〳〵エライお方であつたが、賴朝と政子とは、男女同權と云ても宜しいか、若くは男子を女子が壓すると云つても宜しい位のものでありました。併し斯う云ふことハ、歷史のうちに誠とに珍らしき例と云ふお方もある、私の考ハ然うでない、賴朝と政子の關係は、單り其時に存して居るのみならず、又其位置に存して居るのみならす、凡ての社會のうちに然う云ふ樣な關係があつたのです。裏店には、八公とか熊公とか申す殿樣があれば、又其れに添ふた山の神樣が御座る。此山の神樣と云ふは、小さな政子樣である、八公とか熊公とか車でも挽く人は、賴朝の樣に天下を取る樣な力量が有つたか無かつたか、先づ取らない

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

から無いとして置きませう、然し奥樣が馬鹿であるだけに、旦那樣も馬鹿である。(馬鹿と云ふことが穩でないなれば智惠が無いのです)ソレデ其政子がエライと云ッても驚くに足りない、政子の夫に賴朝がある、山の神の夫には熊公八公と云ふ殿樣があります。渾て然う云ふ關係で、其お方は社會の關係の外、外ではない内と云ッても宜しい。處が其内を窺へば、隨分相替らずに八釜しい、相替らすに夫にさからう、相替らずに夫を輕しな、故に夫と同しとは言はない幾んど同權の位置に立つて居たことが儘あります。ソレデ單り男女の關係は、下等社會にのみ然うあるかと云ふに決してさうでない、上等社會も同一であります。總て舊幕時代に於て、御殿騷動と云ふ如きものを、御覽になれば分るが、御殿騷動と云ふて、君主を毒殺するとか又色々のとを企てるとか、善いとか惡るいとかは二段にして、ヒドイ、八釜しい、隨分恐ろしい仕事をしたのである。演劇なれば成る程仁木彈正とか云ふ男はあります、無いとは言はない、併し隨分御婦人方が多かつたに相違ない、是れは私が斷言して宜しいと思ひます。

○日本現今之婦人(其二)

伊勢時雄　述　佃與二郎筆記

今日の青年の男子は學問をしやうと思へば帝國大學と云ふものがあり又高等中學と云ふものがあり又專門學校英吉利法律學校あど樣々の男子の高等學校がありますが三十年前の人々は如何なる學校にあつて勉强して來たかと尋ねますれば彼の一ッ橋門外に蕃書調所と云ふがあつて少しばかり蘭學をおしへました其後大學南校となり開成學校となり又東京大學となり遂に今日の帝國大學となつたので始めより男子の爲に今日の如き完全なる學校がありしにあらず三十年間の實驗を積み又或は西洋を一週しては「ケンブリッチ」の大學を見、伯林の大學を見ては我國の學校も其通りにと云ふ所から遂に今日に至つたのです凡て物の進步は如斯きもので一飛に天に登ると云ふとは出來ませぬ必すや一步づゝ進むより外は御座りませぬ。

三十年前は綠眼紅毛と云つて輕蔑しましたが今では綠眼金毛と云つて尊敬しなければならぬ彼の綠眼金毛の西洋婦人等は如何ある位置に居りますか西洋では御承知の通り校長も教諭も助教も皆婦人のみを以て組織してある學校はいくらもある彼の姉妹等學校教師中の多分を占めて居ります而して婦人禁酒會等の如き盛んなる會があつて男子に向つて演說をし說諭をし忠告をして酒を飮み之を賣買するとを禁ぜしめます其婦

人會にては雜誌を發兌して之を以て世の中の與論を起さんと致します又大頭領の候補者に撰ばれ樣とした者もあり又婦人の投票權を得んと熱心するものもある又廣ろく同志を募りて藝娼妓禁制の事を政府に請願するものもある又代言人たる所の婦人もあり醫者となつて其術に巧みなる婦人も澤山あります又官衙に於て金錢の出納をなし記錄を司どる婦人もあり新聞の編輯に又著述の業に從事する所のものもある歐米婦人が社會に對して盡す所のものも亦大きなもの婦人の領地も亦廣いものです如何にしてソレだけに事業が出來るかと尋ねて見れば私共ハ彼の姉妹達には其事業の出來るだけの信用があると云ハなければならぬ或人ハ切りに權利と云ふ語を用ひて日本にハ男尊女卑の風があると云はれますが私は寧ろ婦人の權利がないと云ハずして婦人の信用がないと申し度い、誰でもその母親を敬ハないものハないが母親の力量と才智と德行を信ずる人ハ甚だ少くあります、何うで御座いますか母親と云ふて大層大切には致しますが家の母親ハ年をとつて氣遣ひすぎるから仕方がない可愛そうだ安心させる樣せねばならぬと申します既に可愛相と云ふので信ずると云ふことは少しもない若しも婦人が遊學しやうと云へば女で何もするには及ばぬと云つて之を押へ附けまするは畢竟婦人には學問は出來まい出來ても役に立つまいと云ふ不信用があるからです醫者になると云ふ婦人があれば無闇に醫者などが出來るものかと制せられ雇ひに出たいと云ふ婦人があれば矢鱈に男に交つてはならぬと止められますソウシテ是れは一々男子が誤まつて居るのでありませうか、男子が婦人の權利を奪ふて居るのですか、私は未だ然う思ひません是は男子が信用しないのです而して信用しないのは信用を受けるだけの價値が無いからだと思ひます。

この故に私は今日日本婦人方の當に爲すべきとは信用を受けるだけの價値を付るとであると思ふ西洋の婦人は智惠もあれば才能もあり清潔謙遜もあれば忍耐もあり何をしても能く出來能く仕遂るから男子の方でも信用せねば仕方がない却つて婦人の働によりて大に助かりますから之を勵まします而してこの綠眼金毛の婦人とあり社會の上流に立て男子の尊敬を受ける程の信用を得るまでには幾多の辛苦を甞めしや分りませぬ若し此の日本の姉妹方が新日本の男子と共に友達となつて國の爲に働かうと思ふなれば第一價値を作るとが必要であります今の日本の男子は三十年間の困難を經て帝國大學をも卒

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

業したる所のものであります男子は世界を漫遊して智識を蓄へたる所のものであります男子は百千の困難を嘗めて膽力を練磨したる所のものであります左れば此者と共に行かんとするにはソレダケの價値を拵へなければならぬ若し我國の姉妹達が西洋文明國の婦人の仲間入りをしやうと思ふなれば仲間入りをして少しも差支なき樣に價値を作らなければなりません假令ひ其指に耀やく所の金剛石の光澤は殆んど宴會に同席せる外國の貴女淑女の持て居るものに勝りても縱令ひ口には天氣の挨拶などが出來ても若し其の人の腦髓に知識がないなれば其集りたる人と話しは出來ますまい鸚鵡は能く言ふと雖ども智識が無いから僅かのことしか話されません着物ハ立派指環も立派顔も立派なれども話しが出來ないときにハ口あつても口あきに若かざることでありませう其の話の種は僅に五本の指で數へる程しか無いならば一日に同じことを二度も三度も云ふことは出來ず言ふ事が濟んでしまへば默つて居らなければならぬと云ふは實に困難の事と思ひます良人が家に歸つた時はお熱う御座いませうとかお疲れで御座いませうとか云つて仕舞へば話しが盡きて良人が六かしい學問や天下の休戚に關はる大事のことを考へて居ても其を話すことも出來す心ハ如何に心配して慰さめ樣としても仕方がない誠に氣の毒の譯です迚もその良人と本統の友達となることハ出來ない又外國婦人の仲間入りをすることも出來ない故に私ハ價値を作る事も大切であらうと思ひます(未完)。

陶朱が財も子を救ふに由なく石崇が富も一期は有ちがたし

批評

○新躰詩の二著書

新躰詩とは改良したる歌の事にて、前年大學の先生達が大層に吟じ出されたる比ろより、今まは最早普通の文字と成りたり。然るに、新躰詩の主唱者ハ其後全くヒッソリとせられたるに拘ハらず、世上に於てハ其の氣運追々に熟し、歌人の仲間にも和歌改良論を唱ふるものあり、唱歌の流行と共に追々其の歌を作るゝもあり、將に之より一層の進歩あつて、新日本の鬼神も泣き玉ふの日あらんとす。而して此頃に至つて出版されたる新撰讃美歌、明治唱歌集の二著の如きは、此の氣運に推されて現出したる、注意すべきの新躰詩なり。其の細評の如きは、社友美妙齋の稿にかゝるものなり、讀者乞ふ之に因て更らに一評を下せ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其一。新撰讃美歌

（横綴小本全一册定價十錢 東京日吉町警醒社發行）

美妙齋主人

其道に有名なる人々の御合作だけ有ッて、今小生が新撰讃美歌を讀んで感心した處が中々有ります。が、この批評は文學上に關してのみ言ふ論です。

語句が從前の讃美歌より一層簡略になッて、音調も非常に好く、尙其上肝心の道理を自由自在に言回された御手際は恐らく日本人が西洋の詩を譯した諸作の中の上乘と言ても差支はムいますまい。新躰詩といふものが始て世に出てから以來隨分西洋諸大家の傑作を譯した詩が澤山出ましたが、いづれも原作の譜は何とも思はず、ミーターの制限をば屑ともせず、たゞ七五にさへ譯して仕舞へばそれで既にいゝと思ッて得意になッて居る人が一般でした、否實に一般です。この讃美歌のみは左樣で無く、一として原詩の譜がそのまゝ適當らぬは無く、一として原詩の意味を説減らして居るのはありません。之を是までに譯し做された御苦心の程を思ば、小生は此新撰讃美歌を以て日本文學の一進歩と看做してもいゝと思ます。

音調といふ束縛は有り、句數といふ制限はあり、其處で字を十分に使役して、意味を十分に盡さうといふ、それが所謂詩の性質で、之を文章に比較すれば難易は素より明白なもので、殊に形而下で無い、形而上の抽象的の作に至ッては元々通常の具躰的の作よりも一層の語句の適當を要し、且一段の抜出た思想を含ものですから、槪して作に困難なのは言までも無い事です。それを責るのは些過酷かも知れませんが、朧を得て蜀を望む情は何處にでも付て回るもので、この讃美歌に猶處々消化切れぬ語句が有のが些遺憾に思れます。其一二を擧れば夕の禮拜の歌の第九第四首に「天のあけぼのにぞよびさまされて　光りとしぼまぬ花に掩はれん」とある、これが猶、言はゞ、直譯風を脱し切らぬ句法で、殊に「光」と「花」との權衡が何處やら不平均になッて居ます。其他聖靈の歌の第八十九第一首に「なぐさめを持ちて」などゝある、これがどうも前と全樣な句法で、或は最一層御鍛練なさッたら耳立ぬ樣に爲ませう。

小生も蒼卒に讀下しました事故隨分細密な點に眼も注ぎませんでしたらう。因ては見落した惡い處が尙有るかも知れません。が、和文の誤謬がありませんのは第一世に誇れることでしやう。

「ふ」の字が外の字と合して「チ」のやうに響く事のあるのを明亮に現すため傍に「チ」と注意が挿んで在ますが、啻に「ふ」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

にのみ此注意が施してあッて外の「へ」に「ヱ」を施さず、更に第七十八丁第一行のやうに「したふ」とあッて何も施して無いやうなのは些し遺憾な事でした。

歌毎に調名と脚數とを添へ、猶色々精細なインデックスが付いてあるのは新しい趣向では有りませんか、甚だ便利です。

兎に角宗教上の歌といふので等閑に見て居る人も有りますが、今度のこの讃美歌などは近頃第一等の譯歌と言ッて更に差支はありますまい。(明治唱歌の批評は次に載ます)

○近時の女學論

(一)○高島易占第四篇を寄贈せられたるを見るに、其第一に人躰改良の事を占ふと云へる一篇あり。初段には易の効能をばなが〳〵と講釋あり、扨て人躰改良を筮して鬼神の托宣を受け巽爲風の不變の卦を得て云く、

偶々歐米の婦女を娶ると雖ども十中の七八は彼我肉躰の交際權衡匹適せずして凋虚するあり或は衰弱發狂等實に滿足の結果を得るもの少し玆に至て學士先生達か實に避易したるか今一人の口に唱ふる者なし是則ち其策盡きて之を放擲せしか此の如きは只其一を知て未だ其二を知らざるものと云ふべし如何となれば彼の女を娶るの弊を患ひて而して我女を基礎として彼れに配するの術に心付かざる也試に見よ我婦女の外人の妾となりたるもの多しと雖ども未だ曾て一人として腎虚せしものあるを聞かず是れ陰を以て陽を受くれば也。

吾人易を知らざるに因り何んとも申すことを得ず、然し本邦の婦女子が追々と洋人に嫁する事、之に由て得たる子供に不都合なき事、此等は吾人の考へによりても尚ほ甚はだ明白なるを覺ゆ。蓋し智力に訴へて豫じめ判斷するも易なり、虚心平氣腦髓の現示に由つて直覺するも亦易なり、易占決して左樣に冷評すべきものにはあらじ。

叢話

○米國女况通信

島田三郎

左は五月十二日紐育發島田三郎君よりの私信中米國婦女子の情況に關する部分をのみ摘載したるもの也。

(上略)小生シカゴ府にて婦人傳道練習校一見の事、エヴアンストンに於てフランシス、イー、ウヰラルド婦人に面會の事を掲け可申候小生米國滯在中は政治上の觀察に意なく社會上の問題を考へんと存じ候特に婦人教育の一事も此中にありと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

考へ候間其意をハリス夫人(此人の夫ハリス君は明治四年中我箱館に來り前後十餘年傳道に從事し又箱館領事となりたる事あり定めて御承知の義と存じ候篤行の君子にて特に日本人の世話に懇ろなるは今日桑港の日本人皆知らざるなし夫人ハリス才學あり日本の爲めに働かんと心懸け居らるれども我北海道滯在中非常の骨折と氣候とにより咽喉を損じ歸國し即今專ら在桑港の日本人を薫陶することを夫婦にて力め居られ候)に話し候處シカゴ府に友人メーヤー夫婦が少女傳道練習學校を開き居り候間其れを一見すべく又シカゴの近地エブアンストンに夫の有名なる女學士ウ井ルラルド孃住居するが故に尋ね訪はるべしとて丁寧なる紹介書を與へられしにより五月二日シカゴ着の上直ちに練習學校を相尋ね候處メーヤー夫人其校堂を一見せしめ該校創立の趣旨を話され且つ曰く米國の狀を一方より見れば悦ぶべきものあり一方より見れば憂ふべきものあり道德の腐壞せる區域を窺へば嘆ずべき有樣殆んど亞弗利加の未開地に等しきを發見すべし其不德に陷らんとする者を濟ひ既に陷りしものを助け之を正直に導くの必要あるは外國の傳道師を送りて其暗昧を啓發すると輕重あるなし故に此校を此に設ふけて生徒の願ひにより或は內地の慈惠院に、學校に從事せしめ或は支那印度日本等に派出せしめんとて一昨年之を創立せしが未だ完全の點に達するを得ず屢々費用の乏を告ぐるも一片の精神を神に捧げて盡力せしより追々望を達するの域に進まんとする云々と」又日本東京の築地十三番の女學校に教授するマツリー、エヴアンス孃は此校の卒業生なりと申されたり」小生翌朝參校して其教授を一見したるに教授終りてメーヤー君夫婦が此生徒中他日、日本に到りて盡力するものもあれば日本現狀の氣付けを話し與れと申され語氣極めて懇切なれば辭するに由なく今日まで日本の文明は機械的の進歩有形的の變化にして未だ精神的の進歩に入らざれば利他の精神を養ひて一世を救濟するの氣象を社會に盡力する者に傳へざる可からず又日本の三百年以前は一度び羅馬敎の爲めに混雜を起したれば布敎者は純潔獨立の精神を以て神意を布き毫も俗權と混ぜざる樣に注意せざる可らず云々との說を演べたり原來小生は日本出立の時まで自己の用便も覺束なき英語にてサンフランシスコ到着までは船中の客房に閉居し食事もロク〳〵進まざる程の海疾にて會話を練習するの機會なく到着後撿疫規則によつて灣中に十五日間滯留せし時他に精神を用ゐる所なきよりセメテハ此間自用の話しにても習は

んと力めて此點に注意せしも中々に思ふが如く話し得ず毎々困難を感じたり斯る不充分の英語にて演説などは思ひもよらざれどもメーヤー君夫婦の熱心に感じ前話に及びしが同君夫婦は意は充分に別りたりとて悦ばれたり其れより生徒を引合せられしか其中五六名は日本傳道の志願なりと語れり此校務を助け居らるゝショーホルンと婦人は年齢五十以上にて印度のカルカタに赴き十五年間土人を教導せしが氣候の爲めに健康を害せし由にて歸國せしと語れり右練習校を辭してエヴァンストンに赴かんとせしにシカゴは米國鐵道線路の集點にてステーション極めて混雜なればとてショーボルン婦人小生をステーション迄送られ是れより一時間にてエヴアンストンに達しウヰルラルド婦人に面會したり（以下次號）○

○身を棄てゝ妻を愛せし話

昔しローマにグラッコスと云ふ人あり至つて其妻を愛せし人なるが或日寢室に一番の蛇來たることあり或る人の云へるには二匹ともに殺すべからず生すべからず何れか一を擇ばざるべからず若し雄蛇を殺せは良人なる人に不幸ありて雌蛇を殺せば妻なる人に災あるべしとこれを聞きてグラッコスは非常に妻を愛せし人ゆへ身は老ひ朽ちて事の用に立ち難きも妻はまだ年若し無情に散らすも最と可愛と思ひ雄蛇を殺し雌蛇を遁したりしに日ならずして死し去たりと申す話プルタークの書中に見ゆ察する所妄談ならん然れど其妻コルチリアが能く家を治め其子を教育して國家の用に供し身は大王の金環を受けずして寡婦以て樂しみしは深く其良人の其身を愛し己の身までも棄て王ひしと思ふよりして其良人を思ふの切なる心を起せしに依る。

因に云ふ、此夫人が教育したる英雄二人の事女學雜誌第百十四號グラッキの母の傳に見えたり。

○空氣の話（其三）　（衞生局長　長與專齋述　佃與二郎記）

人は廿四時間に十五尺立方（二間半四方位）の炭酸を吐出すものであります四疊半の小座敷で燈や火鉢に火を焚き窓を閉て居れば炭酸の量は餘程大なるものにて其空氣は既に呼吸に適當せぬものであります。お互に新鮮の空氣新鮮の空氣と云とを申しますか新鮮の空氣とは通常の空氣即ち酸素と窒素の割合正しきものを申すので其他は皆多少腐敗して居るに相違御坐りません然しながら人事に鞅掌して居る爲めには汚れた空氣も吸はなければならぬとは是非もなき次第なれども室内及ひ市街の空氣は多少腐敗して害あるものと心得おき成るたけ

室内は窓を開きて外氣を通し又暇があれば公園に散歩するとか山野に運動するとかの必要なることを忘れてはなりません散歩運動の健康を進むるといふは支躰を動かすの益よりは清淨なる空氣の効能が大なるものであります。

右の如く人の口からは十五尺立方ッヽの炭酸を吐出す外に尚皮膚から一種の臭きものを蒸發して空氣を汚します犬か主人の跟を臭き以て搜すと云ふが自ら一種の汗か皮膚の毛穴から蒸發します其證據は長く同じ衣服を着て居れば襦袢に臭がつき男臭いとか女臭いとか云ふ様なもので一般に固有の臭氣があります是れは別段込入た有機性と云ふでもないが動物躰から出る所の一種の瓦斯の蒸發です例へば人の多勢居る所に後から一人這入ればムウットすると云ふ様なとが有ます烟草の香ひでも何でもない所謂人臭ひので牢屋に往けば牢屋臭ひ衛生上注意の届かない學校へ入れば學校臭いといふことがあります此等も大層健康の害になります臭氣ある學校などに入る時は必ず窓を明けて十分に新鮮の空氣を通することに注意しなければならぬ牢屋或は學校等に發疹窒扶私膓窒扶斯ジフテリヤ抔の病毒を持込むことあれば其繁殖は速かにして傳染すること甚しきは其空氣の汚れておるゆへでありります又芝居なども朝から晩まで多勢閉籠ッて居る者ハ大なる毒であります私なども芝居は一躰好きですが午過ぎになると頭痛が致します近來八時間と云ふの制限も立ちましたがモチット短くなりても宜しいと思ひます西洋の芝居は日本の寄席位の時間で五時か六時より長くは致しません芝居を觀たる翌日非常に疲勞を覺ゆるは精神を使ふたる計りではありません主もに腐敗したる空氣を吸ふたる爲めであります近來瑞西の人で「シヤッフエル」と云人が炭酸を量る手輕き器械を發明して巡査など夫れを持て芝居其他集會の塲所を臨撿するといふ畢竟空氣の大切なることに注意するの厚きより自然斯る便利なる發明も出來ることゝ思はれます芝居などは元來耳目を慰めて精神を養ふ爲めの世界の道具でありますから空氣其他衛生上の事にハ取分け注意をしなければなりませんアナタ方も精神を慰むる爲に往て病氣を受けて御歸りなさると云ふ様なとがあつてはなりません夕方頭痛でもいたしたらば一幕くらゐは殘しても早く歸らるゝ方がよろしいと思ひます。

世界の人は一人一日に十五尺立方づゝも炭酸を吐き火も亦炭酸を生ずるものとすれば世界の空氣は遂に芝居小屋の空氣の様になりはしないかと云ふ掛念が起るわけでありますがソコ

は自然の調合で人類以下動物其他總て燃火作用より生ずる所の炭酸は草木類には大層益になるから之を吸取ります一口に言へば動物に害になるものは植物の益になり草木に害になるものは人類の爲になると云樣なもので草木は炭酸を取て蕃殖し其換り酸素を吐出して人類を益します此の如く利害を異にして互に交易しますから万古不朽世界の空氣は芝居小屋の樣になる氣遣いはありません樹木多き所に行て氣分の引立まするは其空氣の酸素に富みて清淨なる爲であります尤も植物は大陽の光りを受けてから酸素を吐くので夜分は少量の炭酸を吐きます故に夜分に居間とか寢間に植木鉢杯の草木を澤山置くのは宜しくありません其上に鉢植には培養を要するものがありて即ち人に害になるべきものを入れることがありますから酸素を吐く間は宜しいが其用を終りたる夜分は成るべく室内に置かぬ樣に致したいのです。

人類の呼氣燃火作用に由て空氣の炭酸を增加して腐敗せしむるの外に尚種々の之を汚がして健康を害するものがあり升が如何なる物が空氣を汚すかと云ふとは御承知になつて居らなければ今日の衞生上の利害に關係あると思ひますから簡易に之をお噺しいたしましよふ。

(第一)卑濕の土地から起る所の穢ない水蒸氣でありまず水蒸氣が足ないで乾き過ても能くない場合もありますが溝とか池とかの溜り水又は菜や大根の切端が溜て居所の塵溜の不潔なる物に雨がかゝり下に水がまわり蒸れて上に昇る水蒸氣は空氣を汚して種々の病氣を惹起します一躰日本は濕れて居ることに頓着しない風俗で家を作るにも風當りのない卑き地を撰み高き地は不經濟である殊によれば風に殪されると云ふてシク〳〵する所も搆いません借家などは殊に物影に建ると云ふ一種の風がある其上日本のは床が低い之れは昔しから穴に住たる未開時代の風が殘つて居のか知れぬが物影に家を建ると云ふは衞生上から云へばよくありません下谷邊は一尺も掘れば水がでますが床は水面から少なくも三尺は高くしなければありません空氣の吹通しが良くないと自然に床下の腐敗した空氣が家の内に充滿し終には大なる害を起すものでありまず然しながら都會などにて誰も皆高燥の地に住居するといふとは出き升ぬから卑濕の地にてもよく下水管を通すれば隨分住居に差支なき健康な土地になるものであります。(未完)

○詠歌論。第一篇、歌の沿革　佐々木信綱

歌のものに見えたるははじめは素盞嗚尊の八雲立つの御詠なれ

どもそのかみは何にまれ質朴にして必三十一文字に限らず句々に長短有し事は神代より人皇の二三十代の長歌短歌などをもて知るべきなりさるを奈良の朝の比に至りて人丸赤人家持などの歌聖數多出て歌の調もやゝ定まりたりそは萬葉集の歌もて知らるゝなり其後山城に遷都有しより詞がら華麗優美になりもてゆきてかの紀記の歌萬葉集の如く質朴勇壯の姿詞はすたれにたり是歌の一變なり。

其後嵯峨天皇の比より歌はたえ〴〵にて詩のみ人々きそひ作りしに宇多醍醐の朝に至り貫之躬恒などの歌人出て又歌道盛になりたる事は古今集の序にもいちじるし今もよみ出る歌の詞は古今集よりこなた千餘年を經れどさしてかはる事なく又歌の姿のおほむねもかはる事なきを思へば此世の歌はまたく後世までの龜鑑となりしものなり故に此延喜の比をもて歌の道のもとも榮えし時といふべし其後村上天皇の御代に梨壺の五人に後撰集を撰ばしめ玉ひ一條院の御時公任卿拾遺集を撰ひ玉ひし比までは山城遷都以來同じ趣ありしを白河天皇の御時通俊卿に後拾遺集を撰ばしめ玉ひき此集は又ひとしほ姿詞やはらひていと力なくなりにたり是歌の二變なり。

金葉集は崇德天皇の朝に俊頼朝臣の撰にていとよろしきが多けれど又俳諧躰なるもまじれり此比のものを見るにしかすがに家集百首などの歌には心のまに〳〵よみ出て平語をもよみ詞をいたはらぬに中々古意は殘りてめでたかりしを歌合さかりになりて勝すとも負じとかまへて歌は天然の風骨ある事をわすれ我よみ口をたわめてよみたるが多くいはゆる歌をつくり物にしたるはじめなるべし詞花集は近衞天皇の朝に顯輔卿の撰にて後拾遺集と次の幽玄躰なる千載集の風をまじへたる風躰と見えたりさて此前に歌に師弟といふ事はじまりたりかの能因法師が伊賀守長能をとひて師とし俊成が基俊の弟子となり長明が俊惠法師に學ひしたぐひやう〳〵あわれり後鳥羽天皇の朝に撰ばれし千載集の撰者俊成卿は巧にされたる姿を好ませしてことさらに優美なる幽玄躰をよみはじめられたり是歌の三變なり。

土御門天皇の朝に定家家隆通具有家雅經の撰ばれし新古今集の歌は又幽玄躰を一變し詞をうるはしくし調をよくしてさて言外に風韻を殘したるものあり趣向は新奇にして情致深く高尙優美なる事前後に類なきさまなりされど其比の人すら達磨宗と歎いひていとわきがたき趣意ある歌多くみえたりこれ歌の四變なり。

此御代は一時に歌の名匠多く延喜の御代につゞきて歌道隆盛の時とすそは後鳥羽土御門順德の三院は歌聖とも稱し奉るへく關白後京極の大臣もすぐれたる歌人其他俊成定家家隆長明僧慈圓西行寂蓮婦女には俊成卿の女小侍從讃岐など皆名たゝるよみてにて新奇の趣向を搆へてよみ出られしよりしか歌の道も盛なりしなるへし古今集より新古今集迄を八代集といふさて次に新勅撰集は定家卿の撰なるに此集は新古今集に事かはりていと〳〵實法ある歌のみを撰はれて歌のさま大におとれり是歌の五變なり。

次に續後撰を爲家卿撰はる此集より新續古今集迄よ玉葉風雅集は少しかはりたれとも其他は皆續後撰の風躰にて大むね皆同しさまなれは論せず此比は種々の技藝も各その家の業とやゝ定まりぬへき時勢なりしに俊成定家の父子殊なる宗匠なれば歌は彼家の物の如く成にたり爲家卿は定家卿の嫡流として世のおぼえも殊に重かりしかば終に此道の棟梁となりて他の人はすへて其指揮に從ふ事となれりされと此卿の歌はおほむね實法に過きて氣慨父卿には大におとれりしかばかの優艶なる新古今集の風躰又一變して終に其風なくなりにたり是歌の六變なり。(未完)

小説

○さすがに雙紙　美妙齋主人

第一篇　旅は途連れ、世は嫉妬。(上)

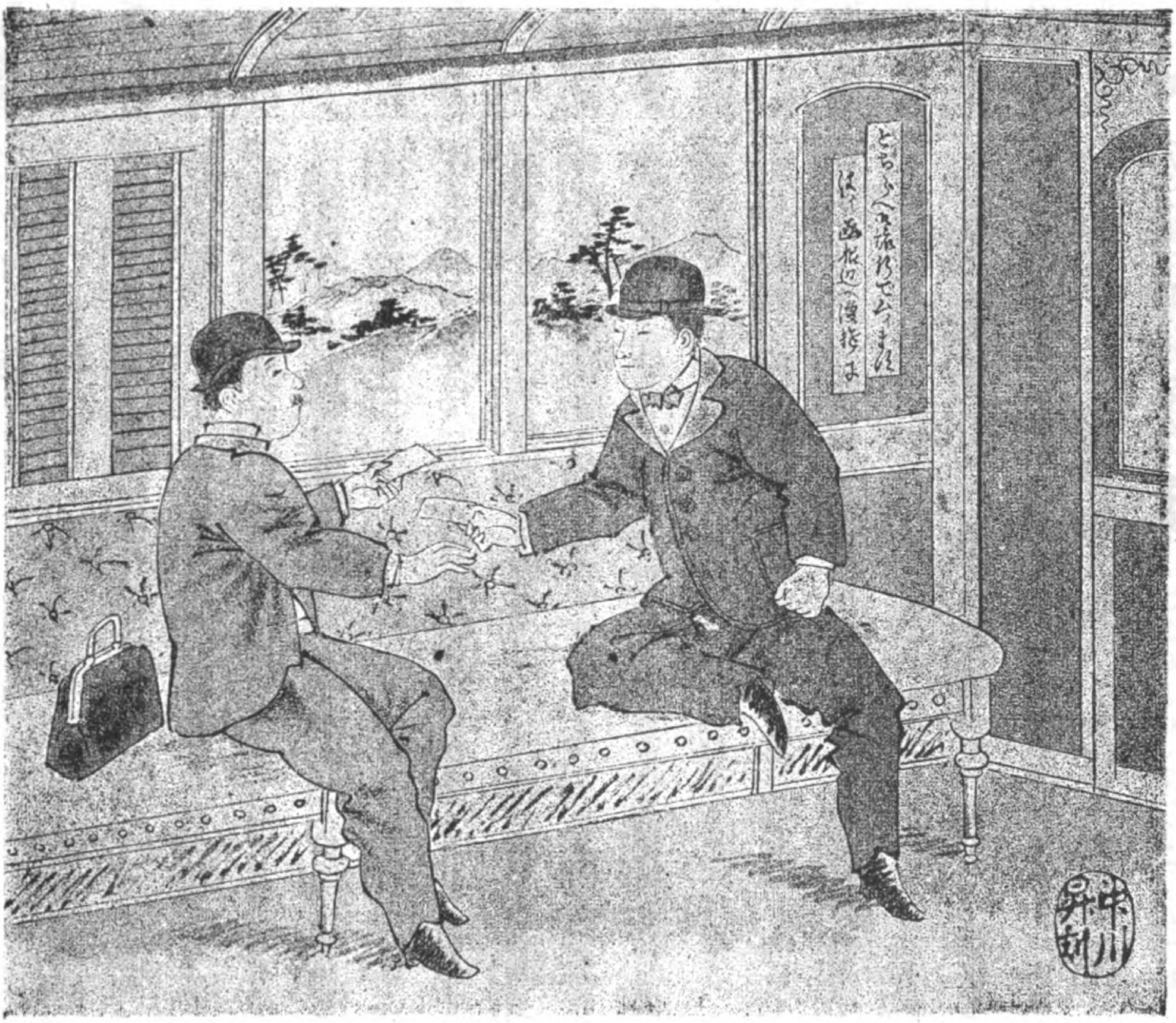
嗚呼嫉妬。　素より是は自尊の情が形を變へた一種の心。すでに人間に自尊の情があるからは嫉妬の心もかならず有るのは分解り切ッた處の事實で何もペインやサレーの門に干魚を捧げるにも及びません。　けれどつらつら之を思へは思ふほど不思議なもの、考へれば考へるほど自由なもの、そして見れば見るほど猶勢力のあるものです。　嫉妬は婦人の專賣特許のやうに、言觸らした往時は兎も角も、今眼を閉ぢて之に問へば……はて、霜夜の月に唸く小犬、それも押領された乳房を索めて、兄の斑をも右へ搔退け、妹の白をも左へ突遣り、そして競爭の奴隷となる、その競爭の本は何です、　本は不負魂で、まけじ魂は自尊の花に出來た果實。その果實が其處で企望の雨か、野心の露に濕ふことが出來なければ、いはゆる滿足の極樂世界は全で垂帳を下して仕舞ッて、果實は十分にも熟さず、そして嫉妬が炎焰となッて焰々と燃上ります。木の炎、肉の炎、すべて皆闇の敵です。　それで、嫉妬の炎ばかりは闇に烟の闇を添へます。

之がためには隠れて仕舞ふ胸の月。　之がためには痕を拂ふ眞理の風、否、風も眞理の境界を去つて遂には非理の風となり、炎にいよ〳〵力を添へ、烟をます〳〵吹卷きます。

實に嫉妬は不負魂が滿足を得ぬところで惡く起つた惡心で。之が一歩を殊にして、もし、よく起つたに於ては、所謂文明の原素なる正當の競爭心です。「一味の雨はかゝれども松は緑、に藤は紫……その源泉は同じです。流出して二股なるに及んで、毫厘の差は千里の懸隔……一ッは背中に疣を生ずるまでの卑しさ、そして一つは駟馬の車に温袍を着るほどの貴とさです。

しかしながら、山に登るのは下るのより困難です。善に移るのは惡に趣くのより不容易です。

その毫厘の差ながら終に千里の懸隔が無くは無いと知りつゝも、それで猶脚は空氣の清い岩の頂上に向くよりは暗い溪谷へ向ふのが吾人の果敢ない處の點で、この小説の土臺は其處です。



春は厂と共に去り、夏は燕と共に來ました。　今日は櫻の紅顏も昨日まで被いで居た霞の薄衣を取退ければ、待設けて居た袖垣は人と共に卯花の白を着けます。　枝に出るのも慚かしいと再度舊の藪蔭へ隱遁する老鶯（その代り藪蚊を追出します）。「今度はわたしの番ですよ」と言はぬばかりに眼を睜り、シヤに構へて謠出す青蛙。　讓葉の嫩芽の柔かさ、サラッドにでも爲て食べたく。曉がたの柿の花、落ちては雨かと疑はせます。　この景色のやさしさ、床しさ、實に初夏のこの風情は一般何に似て居ましやう。　春がもし處女なら、初夏は黑小袖の少年です。是は詩人の考です。　暑がりは此時候を賣出の景物に鬪扇が出る頃と考へ、洋服屋の新參小僧はセルやリンチンの言葉をよく覺える時と思ひ、そして氷屋の姉さんは削鉋で（まだ馴れぬゆゑ）指に怪我をする日と見ます。

餘計なことは扨置いて、今新橋發の滊車が横濱を指して駛つて居る間、中等列車の一の中に總計二人の客が居ました（日本も貧乏ではありません）。　いづれも年は二十五六で、まづは出來たての若紳士。まだ出來たてですから餡が出るかも知れません。　是は菓子の話ですが、やはり菓子には縁が有つて、一人はちと甘さうで、そして一人は澁さうです。

そんなら辛いのは二人の錢ばあれて、酢いのは二人の聲かと御尋ねなさる料理通もムいましやうが、まさか左樣でもありません。　まづ甘さうなのから述べましやう。

○小說神髓

蘇格氏著　ケネルヲルス（第二十回）

陛下は診斷書をトレッセリアンの目前に差出し汝ち城主の眞實を疑がひ之を僞はりと訴ふる以上は其の證據なくて適ふ可らず、トレッセリアン之をつら〱と打ながめて初めてラブサートに爲したる約束を思ひ出し此は由なきことを申出したりと後悔して沈默たり、人々は彼が一言の答へもなきによつて彌よ不審し或は氣が違ひたるにはあらずやなど耳語ときパーチー進み出でゝ申す此の診斷書を認められたるはアラスコ先生と申し陛下の侍醫の方々にも折々は御相談あると聞ゆ頗ぶるの名醫に候、陛下曰くトレッセリアン右にても尚ほ滿足はなきか、無言ならば滿足にてあるべし、然らば之よりはラブサートの父を慰さめバーチーをムコと爲し孃が過ちを許すよう取計らうの外ある可らずと、御意あり最早其處を立んとせらるゝにぞトレッセリアン思はず進みて陛下の衣もの御裾を

シつかと執り、

陛下、あなたはクリスチアン(基督信徒)の女及び大英國の女王にまします、臣が此期に至り敢て願ひ奉るとは何卒右の事件をかろ〴〵しく定め玉ふなからんとの義に候。

陛下驚ろいてつく〴〵と御覽あり汝ぢ斯迄に申さば其診斷書の僞はりたることを切度證據立て得る乎、トレッセリアン曰く切度二十四時間の後ちに證し參らすべし其間だ何卒御猶豫ありたし若し其時に至つて確實に申し上げ得ずんば臣が首べを召さるゝとも少さか遺憾無之候、陛下冷笑して凡ろ英國の法律に反かざるものは其首を執ることを得ず汝ぢの首べを得て何にかすべき但し汝ぢが此の事件に對し左程に熱心なるは何故あるか殆んど其意を解するあたはず今ま明白に其の理由を述べ得るにや、トレッセリアン自から考ふるよう否な此の診斷書の僞はりたることを明らかに證し得たりとも廿四時間の後にラブサートとパーチーが仲を睦まじくせんには余れが斯迄に申したるとも何の効能なきに至らんかと斯樣に思案して今の陛下の御問ひに答ふるを得ず、ソレはと口ごもりて躊躇すれば陛下大ひにイラダチ、左樣に前後錯雜の事を申すものとは最早對面無用なりブラント夫れ此者を目通りより引去れとあつて憫れむべき哉トレッセリアンは遂に一室に閉ち込められたり。

陛下之を見送つて窃かに嗟嘆しトレッセリアンは學もあり亦た怜悧の聞えあるに愛情の爲に心を亂して狂氣したりと覺ゆ既に斯く亂心の證據明白なる以上は此後最早その歎願を聽上べきにあらずいよ〳〵以てバーネーをラブサート氏の正當のムコと爲さするより致し方なし、夫に付てはバーネーは未だ格式なきもののゆへ今日此處ろに於てナイト(勳爵士)の爵位を與ふべし又レスター侯の臣下に斯く一人のナイトを擧げたる以上はサッセックス侯の方に於ても同樣に致すべしとて評議まち〳〵の末え遂に彼の御氣に入りのラウレー及びブラントの二人に同じき爵位を與へられける。

佳傳

○米國女學校最初設立者　メレイ、ライチン女史　(其二)

斯て廿四歲の時又々多少の金たまりたればパイツヒールドのエマソンと云へる人の所ろへ行て學びぬ此頃人々は女史の學力すでに非凡なるを見て最早や敎を請はるべくもあらずと忠告したるほどなれども固より智識を求むるの念非常に止みが

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たければ遂に其許に行いて學びぬ當時同窓の書生が其母へ送りたる手紙の末に、

ライチンは眞に好き性質にて多くの人々を愛すれども學に耽りて寸陰をも惜しみ僅かに手紙を認むるとすら爲し得ず候且つ吾々は日々寸々に進歩するとに候へども彼女は毎日智識を手一杯づゝに取りて進歩驚くべき程に候。

と申し遣りたるとありとぞ。女史の學業に熱心なる此計りなれど其比ろアムヘスト、ハーバード、の如き大學校にてすら女生に給支金を與ふるの仕組なければ此の有爲の女をして空しく學資の足らざるに困ましめたるぞ殘念なる。左れば女史は困厄の間だに多少の金を貯へて之を以て學び學んでは智識を得て之を以て敎へ敎へ且つ金を得て亦之を以て學ぶが如き多忙至極の間だに終始一轍の如く學に進みたり而して其熱心は一日の如く絶へて失望落膽したるとなしとは云へ又時としては其の不幸を歎ぜざりしにもあらざるべし然れども女史元來左樣に弱はき質にあらざれば奮然として每度人々に敎へ申されたるは、

凡そ人が其身の不幸を感じて歎息するの時は即はち他人の利益を考ふるよりも多く己れが一身の利益を考へ居るの時なり若し他人の爲に熱心に計る所あらば敢て憂鬱に沈むとなかるべし、

と云へり眞とに立派なる覺悟と申すべし。

女史すでにエマソンに學びてよりは後ちサンデルソン校の敎師と爲り又デルリーに於て敎しへ冬は其の故鄕に歸つて子弟に敎ゆ其間復た幾干の金を得たりと云へども此度は之を以て親戚の足らざるに補なひ若しくは貧家の女生の學に就きがたきものに與へて學問せしめ自身は自から紡むぎ且つ織つたる靑き綿布の衣物を着て始終之を更ゆるとなかりき。

三十歲の頃ろ學力才名すでに高く當時人々に尤も尊敬せられたれば之に緣談を申し入れたるも多かりし中に女史の伉儷として愧かしからぬもありしなるべし然るに彼れ年來一つの目的を立て之が爲めに其の一生の幸福を犧牲せんと決斷したれば遂にすげなくも悉く之を謝絶して終身人に嫁せじとは定めぬ蓋し女史素より家族團欒の幸福を無みするにはあらず其の溫愛の情切なりしによりては此の幸福を喜ぶの念も亦た一層に強かりしならんとは云へ當時女子敎育の途未だ全く備はらず志ある女生も敢て學に就くの便を得ざるに苦しむと即はち女史自身の經歷の如くならんと思ひては斷然此の幸福を棄

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て、自から大ひに勉むる所ろなかる可らずと決心し扨ては遂に此に至れりとは知らる。（未完）

寄書

○雲雀の英詩

左は横濱二百十二番女學校教頭ピアソン夫人が作なりとて或方より寄送せられぬ。

HARK, THE LARK!

Words by Mrs. Pierson.

I.

Hark! hark! the Lark at Heav'n's gate sings,
In accents clear and sweet,
A hymn of glad and grateful praise,
Of worship at His feet
Who all things made—
The golden light and silver shade:
To join the chorus of the skies,
O sleeping ones, arise, arise!

II.

Hark! hark! a Voice from Heav'n is heard,
Like waters soft and clear
By winds of summer deeply stirr'd,
In music to the ear;
The hosts above
In accents sweet proclaim His love:
To join the chorus of the skies,
O sleeping ones, arise, arise!

○いらつめの批評の批評の批評

本郷ＷＳ生のいらつめの批評の評は評にあらず罵詈なり非を理にまげていきまくさへ笑ふべきに罵詈を以て瞞着せんとす其畀怯憐むべし固陋の心を以てかの有名のいらつめ批評者の害を爲さんとす誰れか之を信すべきやいらつめ記者辨答の勞を取られずとも可なり。

神田中猿樂町　花陵子

新報

（此欄内自由に轉載するを許す）

宮廷錄事

○皇后宮行啓　去廿三日　皇后陛下は府下飯田町三丁目なる日本赤十字社に行啓あらせらる當日は同社第二回總會にて來會者には總裁小松宮殿下同御息所、華頂宮都子殿下を始め社長佐野君院長橋本君其他朝野貴紳四百餘名篤志看護婦人會員三十名午後二時着御一同奉迎す暫時御休憩の上式塲に臨ませられ左の御詞あり。

兵士の軍陣に臨み傷痍を受るは各其國の爲に盡せるにて彼我の別なくうの憐むべきと他に比類なし本社へその最も憐れむべきものを洽ねくすくひたすけ慈愛の情を表するものなれば予いかでか喜ばざらん諸員よく勉めよ。

次に總裁宮謝辭を呈し社長前年の事務會計を報告し畢つて社長より篤志看護婦人會修業證書授與の事及人名を上申す續て總裁及病院長の奉導にて病院へ臨御各病室救療器械陳列所等御巡覽患者三十六名の病室に臨み親しく病狀を御尋ねあらせられ御巡覽中小兒患者矢野千吉石田武義に御手づから翫弄品を賜ハり便殿にて暫し御休憩茶菓をめさる此時總裁宮社長院長より近況を申上げやがて還御ありしは午後四時過る頃にてありしと云ふ。

○美術

日本の社會も追々に優しくなる哉、美術の氣運將に大に勃興せんとす。美術學校も起り、音樂校も盛にならんとす而して民間に於て美術雜誌の出版せられんとする既に四つ五つあり、日本は啻に女論の盛んなるにあらず社會彼自からも亦追々と女らしくなる也。

○耶請ふ明治の勲爵士たれ

宗教社會の青年に向つて怨言したる婦人あり曰く耶蘇は茶番をして妾等を喜ばせ玉ふに及ばず希くはモット氣象を大にしモット日本の事に頓着しモット益に立ちモット意氣地ある男子と爲り玉へれと。青年答へて曰く迚も左樣に六ッかしひ願計りしては居られず時としては踏舞もせざる可らず然し之は決して世潮に眞似たるにあらずと。女學士未だ孰れか可なるを知らず。

○高等女學校　去廿三日同校に於て演習會あり來會者五百餘名甚へだ盛況なりき音學唱歌等數多ありし中に束髮と日本髮の利害（北村孃）塵埃の用（平岡孃）上野美術會（吉村孃）畏を述ぶ（大村孃）等の論文は特に有益に覺へたり。

○婦人慈善會　東京慈惠醫院第四回婦人慈善會は來る十一月十五十六十七の三日間鹿鳴館にて開會することになりし由。

○產婆會　府下各產婆支部會員甲部は昨日午後二時より府廳の議事堂に於て同規則に關する議事を開き又櫻井郁次郎相磯慥の兩氏の講談ありしと。

○畵學修業　府下芝區濱松町一丁目十五番地士族狩野藤雄氏（十七年七月）は今度畵學研究の爲め米國桑港へ渡港する由。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○横濱二百十二番女學校　同校に於て去る十四日に卒業せられたるは森ちせ、外山さよ、吉田せき、ニナハーペー、吉岡たま、山根こと、の七孃なり而して同夜右の諸子が演説もしくは朗讀ありたるもの丶題は左の如し、
吾等生存の目的(森)○教育の實用(外山)○家族及郷里の愛(吉田)○世界大勝利者(ハーペー)○引力非秘奇(吉岡)○告別辭(山根)。

○宮城赤十字支社　宮城縣支社にて今度宮城縣篤志看護婦人會を設ふけ講師若干を置き婦人の志願者に看護法幷に衛生上の要點を教授する事に決し會則を設ふけんとて去十三日仙臺區東二番町の小學校にて議事を開きたりと。

○本願寺の女學校　今度東西兩本願寺に於て協議の上共同學校と云を設ふけ專ら貧民の女子を教育するの計畫ありと云ふ。

○佐賀婦人協會　同會にて會頭幹事の撰擧會を開きしに江口さと子會頭に永淵あさ子江副つな子の二氏幹事に當撰したりと。

○薔花女學校　伊豆國三島驛の有志者が設立したる薔花女學校は女子の智育德育躰育を發達せしむるの目的にて英學和漢學數學和洋裁縫及編物和洋女禮式泰西音樂等を教授する由にて教師は英國婦人リセーバラー氏並びに數名の本邦婦人なりと云ふ目下生徒の募集中なり。

○松本婦人矯風會　去二日夜同會を開きたり來會者五十餘名特別會員小島判事客藤開智學校長の演説ありたりと。

○大坂慈惠醫院　同地の有志諸氏が發起となり貧民救助の趣旨を以て西區江戸堀北通一丁目に創設せし同醫院にハ會長に平瀬龜之助、副會長に田中市兵衛、院長に緒方惟準、副院長に高橋正純、幹事山口善五郎、田村市兵衛、高橋正直、山田俊郷、商議員に大野晩造、石上儀七、旭形龜太郎、高安道純、岡救安等が當選して開院の都合に運べりと云ふ。

○三重婦人會　伊藤岩男兩書記官の夫人及び三重女學校兼師範學校訓導吉田トミ子(高等女子師範學校卒業生)外數名の發企に係る仝會は去る八日午后一時頃より三重女學校内に於て第六回集談會を催したるが當日は師範學校教頭桒原譲一氏も其招きに應じて臨席し女子教育に關する談話をなせし由尤同會は每半年末に役員を改撰するの約束なるが恰も同日ハ其改撰期に際したるを以て仝時に役員の選擧をなしたる所從前の人々再撰し別に異動もなかりしと云ふ。

外報

○女醫大學　米國ミシガン州デトロイトに於ける内科外科醫大學校に於ては女生を男子同樣に取扱ふとを許したり從來女生に教授を許したる所ろはありしが男生同樣の取扱ひになしたるは米國の大學中之が初めてなり。

○印度女學　米國に於て彼の印度の寡婦を教育する女學校設立の爲に資本金を募集する印度のポンヂタラマバイ孃の事は每度本紙上に於て記載したるとあるが此頃ろに至ては右の爲に既に五十萬弗を募集したりと云ふ。

○ニウィングランド　米國ニウィングランド女子投票權擴張會の年會即ち今年に至り第二十回に當る年會は去る五月三十日ボストンの音樂館に於て執行したり。

小供談

○盲人の物語　(其二)

されど慾は愈強くありまして何坊三の持て居る二十が氣になるものですから「和尚樣あなたは誠に難有きお方にて此世の事にはおん心を付け玉ハず只神樣にのみ事へ玉ふ此世の寶は救に入るの墜穴と承ハる私に十匹を頒ち玉ひて此世の心遣を減じ玉ふては如何にと申しましたにナル程と申されまして又私に十匹を與へくれました私は其十匹を請取まするとき地に頭をつけまして誠に難有ふござりますどうかモ十匹を與ひ玉ふて全く心遣を絶ち私の喜を滿足させ下さる間じきやと申ましたに又ナル程と申されまして其十匹を私に與へながら申されますに付ドーヅ其等の寶をば程よく使ひて常に心に神樣は斯く寶を與へ玉ふごとく又寶を取り去り玉ふと云ふことを覺へ玉へと申されました其所で私は八十匹の駱駄をそれに積みました寶を一人して持ちましたこれでおけば善かつたに慾か愈つきまして彼香箱の事を思ひ出しまするに彼の香箱も屹度大切ある物に違ひない四十の駱駄を安すくとくれしも實は

四十の駱駄の寶より彼の香箱が價あるからであろうと思ひ込みまして再び彼の坊三の方へ行きまして一寸談を致しまして別を告げ歸らんと致します折「ヲヽアノ和尙樣は此世の物には御心を止め玉はらずと承る付ては彼の香箱もお無用の品ならん土產に私に與へ玉はるまじやと申しましたにこれは望む所なりとて其箱をも私にくれました私は其箱を開けましたに坊三の申しますには拙僧かこの箱を使ふときは驚くべき働をなす若し拙僧が此箱を持ちてあなたの左の眼に當てなば全世界の富を一間の中に見ん又右の目に當てあば直ちに盲人となるべしと話されました私は是非に其全世界の富を見たひと思ふ心を起しましてドーゾ左の目に當て下されと願ひまして當てゝ見ますと美しひ物やら價高き物數限もなく斯くも寶はあるものかな此の寶の中に住めば定めて心樂しからん斯く左の目にて見れば斯る寶を見得らるゝ事なれば若し右の目を以て見れば其寶の藏に入る道も見えん右の目にて見たきとなりとて坊三に申しました。（未完）

萬國女子大會景況錄　其四

水曜日（三月廿八日）の朝たも亦例の如く開會し「工業」と云へる問題にて數多の演說談話あり又たりパモア夫人は過五十年間工業上に於ける女子の勝利と云へる一篇を朗讀し引續ひて五六女史の同樣なる朗讀ありたり。

同日の夜は「職業」と云へる問題にて同樣の會あり教授シケールは女子教育者と申す題にて演說ありラウラ夫人は女子記者と申す題にて演說あり博士ステペンソンは女子と醫業と云へる題にてビッテンベンデル夫人は女子と法律と云へる題にて宣教師ボウエル女史は女子傳道と云へる題にてフヒールド夫人女子萬國印書協會と云へる題にて演說あり其外同樣の演說尙ほ澤山ありき。

○

木曜日（三月廿九日）の朝は「協會」と云へる問題にて同樣の會合あり此時恰かも倫敦及びサンフランシスコ等よりの電報到着して祝辭を寄せたり、斯て女子奬勵協會、敎育及職業女子同盟會、デンマーク少女孤女保存會、及デンマーク婦人會、伊太利女子景況、並にウイラルド孃の女子協同の勢力など諸女史の演舌ありしと知るべし。

同夜は「法律上女子の景狀」と云へる問題にて又同樣の集まりありたり。

○

金曜日（三月三十日）の朝は「社會淸潔」と云へる問題にて又同樣の集まりあり此日は只婦人のみに傍聽を許しぬ又同夜は女權擴張の率先者にしてパイフニーアンと稱せらるゝ人々の集會なりきアンソニー孃主會と爲つて且つ開會の演說を爲し。其后ちスタントン夫人、ドウグラス、ストーン夫人、ブラックエル女史、宣教師ブラックエル女史、パルビス、グレウ孃、ゲージ夫人、ホメロイ女史等代る〳〵演說あり。チヤント夫人は唱歌を歌ひ斯てセワール夫人、シヤッタック夫人、セウ女史、ジョンス夫人、コルピー夫人、フホスター孃等代る〳〵る美麗なる花かごを演壇の下に持ち出でらる。斯てセワール夫人、簡短なる演述ありたるのち此等の花をスタントン夫人、アンソニー孃ストーン夫人、ゲージ夫人、ホーエ夫人、リバモア夫人、セウ女史等へ名代委員の資格みて分ち、資金の署名うつたる針をフホスター孃に呈して本會を起したるの功を謝し、其外數多の率先者を一々演題の下に召び出しアンソニー孃自から吾人の功蹟を簡短に述べて之を祝し斯てハッチンソン朗吟して會を閉ぢぬ。

因に云ふ當日各率先者の功蹟を一々に述べたるアンソニー孃の演說は實に萬國女權擴張史の上に尤も有益なるもの也右景況錄餘まり長うなるに付茲には斯の如く畧記すといへども異日之を細密に傳するの時あらん讀者諒焉。

斯て此夜は「政治上に於ける景狀」と云へる問題にて集りありき。

○

翌日曜日の午后には宗教上の集會あり其夕べにはウレース夫人スタントン夫人の演說あり。

右にて先づ集會は畢りたり此後の景況及び其の殘りは后ちに記して補遺となすべし。

廣告

宮内省御藏板

婦女鑑

全六冊

此書ハ宮内省ノ御藏板ニシテ婦人ノ亀鑑トナルベキ和漢洋ノ孝女烈婦貞女賢母等ノ言行事蹟ヲ蒐輯シ且ツ圖画ヲ挿入セラレシモノニテ既ニ本年一月

皇后宮ヨリ華族女學校ノ生徒ヘ御下賜相成リ實ニ婦人ノ課讀又ハ修身口授用書トシテ其徳性ヲ涵養スルニ於テ最モ有益ノ書ナリ今般弊舗ニ於テ發賣ノ御許可ヲ蒙リ候ニ付婦人ハ勿論苟モ婦女教育ニ志アル諸彦ハ必讀アランヿヲ切望スル所ナリ

但シ右書ハ各賣捌ヘ差出シ有之候間何卒御手寄之書林ニテ御講求被下度候

東京書林　吉川半七恭白

定價金壹圓　郵送料金四拾錢

女學雜誌第九十七號に批評あり

女學雜誌代金滯候御方にして

毎々御催促申上候とも尙ほ御拂込無之仁あり而も其御住所すら分明ならざる向も候まゝ如此き御方に限り以後雜誌上に於て御催促申上候に付不惡御承知被下度候
但し本社は專ら情義を重んじ候心得に有之決して輕々しく右樣の取計らひ不仕存候得共何分三四ヶ月以上も滯り居り候上毎々の御催促に一報をも寄せられざる諸君に對しては實以て不得止の處置と御許容あり度預め申上置候也

女學雜誌社會計掛

上州伊香保溫泉宿村松秀茂

こゝの出湯のひめ方の病ひに効ある事は伊香保風の世々に吹傳へ物聞山の聞きなれたれば更にいはねど往復ふ人の年毎に多くなれるは開けゆく御代の光りの御惠にこそよるなるべけれ然れは年月に建增たる家構廣きは許多あれど山水の眺望のいと愛らかに見晴たると內外の人々の起臥にも叶ふやうに營み建たるは憚り多き事にあれど我家居に限れる殊に萬の調度どもは淸らを盡し都ての御賄は心の限り低廉し蘇比の榛原ねもごろにつかふまつれば此地にゆあみして御身を養ひ賜ふ君は榛名の山より高く伊香保の沼より深きみめぐみもて今年もまた根呂の小松の待つ程たがへず宿らせ賜はむ事を冀ふ

改良 上等牛乳販賣廣告

定價 壹合金二錢八厘 五勺金一錢五厘
毎日三合以上御飲用は壹合金二錢五厘の割

弊舍ハ主ノ御恩惠ト御得意各位ノ御引立ニヨリ日増ニ盛大ニ赴キ難有奉謝候依テハ猶一層注意仕前記ノ低價ト速達ヲ以テ廣ク貴需ニ應ズ御飲用ノ上益々御高評アランコトヲ

北豐島郡坂本村 牛乳專業 相愛舍

交詢案內

双方ともに郵券十錢を送れ 間暇に爲すとゆへ催促すな

●雇はれたき方（乙）

一	教師	師範學校女子部の卒業生にして府下の何方へか教授に行きたきものあり
二	畫師	洋畫の女教師となり得るものあり廿歲前後時間多らずば女學校の教師となりたし
六	奉公	地方師範學校卒業生にて學費に困むに就ては可成西洋人宅にて兩人協力勉學旁雇へれたき二娘あり無給にて何地にてもよろし
七	裁縫	年齡廿三にして家內の手助けとならんが爲め內職に裁縫に雇へれ度き者あり華族樣か町家ならば大家のかたき內にて築地邊ならむ通いても宜しとのと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し
八	教師	地方女子師範學校卒業生にて教育に從事し居し者東京にて四五時間は教育をなし餘は自分の勉强時間と定め八圓より十圓までにて雇はれたきものあり尤も洋人の居る處ならば何處にても宜し
九	奉公	東京高等女學校卒業生にして英學を修めんとすれども學資に乏しく依て己れを糊する丈にて西洋人若くは貴婦人方の左右にありて小間使となり傍ら勉强したきものあり
十	縫師	年齡三十歲位のものにて和洋服裁縫出教授に雇はれたきものあり給料は相談上にて宜ろし
十一	召使	學資に乏しく依つて小間使ひとなり餘暇を以て教授を願ひたき十八九才のものあり
十二	教師	或師範學校にて普通學三年餘修業せしもの學校に七八圓位にて通勤致したく又は他の御內にて入込み教授するならば六圓位にて雇はれたし可成は東京横濱の中を望む
十三	教師	栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御內にても教授に雇はれたきものあり可成くは麴町か駿河台邊を望む
十四	洋行	身元慥なる十八歲位のものにて英漢學も可なり出來るものにて學問研究の爲め貴婦人の歐米に航せらるゝ御方の小間使ひとなりて隨行を願ひたし

出張教授を望む

壯年にして身元確實品行方正生來高等の教育を受け最も獨逸學に通曉する者あり今般當人の餘暇を以て毎日官員華族若くは其他の令息令孃等の御內に獨逸語出張教授仕度候間御望の御方は何卒女學雜誌社まで御通知被下候尤も時間は午後の內一時間乃至二時間にして報給は八圓乃至十二圓とす又二人以上御組合にて一同に教授仕りても宜敷候。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

華族女學校士民生徒募集

來九月以降本校下等小學第三級(即最下級)ニ拾五名自餘中小學諸級ニ拾五名合三拾名程缺員可相成ニ付士民ノ女子入學志願ノ向ハ本月中本校ヘ申出テ入學ノ手續等承合スヘシ

明治廿一年六月

華族女學校

生徒募集廣告

來る九月より始まる學年生徒各級幷せて四拾名入塾を許し候に付き志願の諸娘孃は入學試驗期日(七月十、十一日)に先ち校長宛願書御差出しあるべし但し本校一覽は郵税四錢封入監事宛御申込あらば直に發送すべし

明治廿一年六月

横濱山手百七拾八番館

フエリス英和女學校

●基督教新聞

第二百五十七號 六月廿七日發兌

社説○將來に於ける我國教會の特性●教報○紐育通信外廿件●論説○文明社會の樂園●雜錄○神なく又た望なし○世界離婚の風俗●雜報●一冊定價金三錢

東京々橋區日吉町廿番地

警醒社

矢島錦藏譯述

斯氏女德新説

洋裝全一册 定價金九十錢

賣捌所 東京々橋區竹川町十三番地

共益商社

○東京 婦人矯風雜誌

第三號 六月十六日發兌

目次●矯風會員に勸む(淺井柞)○自己の思想則ち婦人の思想は男子と異なり(佐々城豐壽)○社交上に於ける婦人の勢力(德富猪一郎)○米國婦人矯風會々頭ウヰーラード孃の傳及肖像○在布哇日本人禁酒會の趣意書○矯風會の唱歌○煙草の用法(小川とく)○寄書○會報數件

毎月一回發兌定價一册六錢

東京麴町區飯田町五丁目卅番地

東京婦人矯風會

○東京經濟雜誌

第四百二十四號 六月廿三日發兌

目錄◎(社説)獨逸皇帝崩御○社會ニ大理アリ(第四)○醬油税則ノ改正○樞密院ノ憲法會議○政府紙幣流通高ノ疑問ニ答フ◎(論説)渡邊洪基君ノ説ヲ論駁ス○米國動産税(續)◎(寄書)農家融通法○人生ノ感ヲ述ベテ民力ノ問題ニ及フ◎(雜錄)獨逸皇帝即位○整理公債發行手續ノ改正○北海道鐵道布設ヲ議決ス○日米兩國間ノ貨物運送料○經濟學協會六月例會○葛生馬車鐵道ノ許可及役員選定○宮城縣小作者慣行○越中米○合衆國歳入ノ餘剩統計○一八八六年英國輸出入表○鐵道收入(四月中)○東京府所轄公債證書增減表(一月中)○文官高等試驗○横濱新糸ノ入荷○戰塲ノ花○鏡花水月○藪ノ鶯○輿論記者ノ一言○輿論記者ノ女學○フエノロサ氏ノ演説○佛國ブーランゼー將軍ノ憲法改正意見○足利物産市塲取引統計表(五月中)○銀鑛發見◎(金融及商業之景況)横濱ノ商況○東京金融ノ景況○東京公債及株劵ノ商況○東京限月米及正米ノ商況○東京諸商品ノ商況

定價 一册金七錢○十册前金六十五錢○府外ハ一册ニ付郵税一錢宛增

東京々橋區彌左衛門町七番地

經濟雜誌社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

條虫施治廣告

さなだむしりやうぢくわうこく

腹中に條虫生じて本人の氣づかざる大害ハ身體第一貴重の腦神經の滋養分血液等を減じ故に記臆力耐忍力活潑力を失し知覺感覺變じ不知不識治療を怠り終に死に至るは能く人の知る所也余が此治療法ハ藥用前ニ斷食するに不及纔ニ一二時間にて全く條虫の頭尾不殘下し盡し身體に勞れなく諸病全癒目前なり又世間に一箇年中に二度も三度も治療する人あり是れ全く虫の頭殘る故也假令幾丈の長き虫を下すと雖も頭殘れば又其頭より生長す疎畧の治療して頭を殘せば恰も草の芽を刈るが如く次第重症と成るなり圖の如き虫の頭を下せば二度び生ずることなし予が治療したる數千人を見よ一度び治療して全治せざる者未だ一人もなし依て大人小人男女とも常に胸さきッカヘ又ノボセ強く眼のふち赤く或は疝氣寸白(スバク)とか思ひ又子供の出來ぬ男女其他虚弱の人ハ來て一診を乞ふべし虫の有無を診斷し治療致すべし予が良法發明以來日々の診斷研究と自然のなれに依て猶又近來は實に容易く全治す依て疑なく該患者ハ來て予の治療を試みたまへ

虫病專門
內外科醫 市川甫

條虫治療所

東京芝公園地芝園橋交番所脇

發兌

四月。七日 十四日 廿一日 廿八日
五月。五日 十二日 十九日 廿六日
六月。二日 九日 十六日 廿三日 三十日
七月。七日 十四日 廿一日 廿八日

定價

一册。五錢 郵稅。一錢 (但府内無郵稅)
十册。四十八錢郵稅。十錢 (同前)
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行 一回 前金拾錢 (廿七字詰)
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町園々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文審堂○橫濱住吉町角田宏貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入藻集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボードル○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町○木村文助○尾張國名古屋木町石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年六月廿八日印刷
明治二十一年六月三十日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.